

# 公益財団法人損保ジャパン環境財団

## 平成24年度事業報告書

### 1. 事業の概要

平成24年度の事業活動の特色は、次の3点になります。

- (1) 「CSOラーニング制度」(※注)においては、39のCSO団体へ66名の大学生・大学院生の派遣を行いました。
- (2) 「市民のための環境公開講座」においては通年講座9回を開催、うち3回は日本橋会場にて実施し、野外体験・ワークショップという形で特別講座を2回開催しました。
- (3) 「企業と環境問題研究会」においては、「気候変動への『適応』～主として自然災害リスクへの対応～」についての研究を継続し、計5回の研究会を開催しました。また、11月にはシンポジウム「気候変動にレジリエント(強靱)な社会のために」を開催しました。

※注：CSO=Civil Society Organization 市民社会組織の略。NPO・NGOを包含する概念。

事業のあらましは次のとおりです。

#### (1) 環境保全活動に活躍する人材の育成支援(事業予算計2,950万円、実績計2,910万円)

##### ①「損保ジャパンCSOラーニング制度」の実施(予算2,100万円)

大学生・大学院生に対する環境CSOでの活動による人材育成、及びCSOに対する支援を目的とした本プログラムは昨年度で14年目となりました。平成24年6月～平成25年1月末までインターン活動をする学生を公募し、4地区合計39のCSO団体で66名が参加しました。

| 地区 | 応募者数 |          | 合格者数 |         |
|----|------|----------|------|---------|
| 関東 | 56名  | (昨年83名)  | 33名  | (昨年31名) |
| 関西 | 18名  | (昨年28名)  | 15名  | (昨年16名) |
| 愛知 | 16名  | (昨年15名)  | 10名  | (昨年11名) |
| 宮城 | 10名  | (昨年8名)   | 8名   | (昨年6名)  |
| 合計 | 100名 | (昨年134名) | 66名  | (昨年64名) |

昨年度の運営では、近年実施していた地区ごとの自主取組みである「チャレンジ企画」を必須とせず、ひとりひとりがCSOの理念を理解した上で、しっかりと活動し学び、それを地区ごとに共有してお互いの経験を深めていく、という本制度の基本を重視しました。修了式ではそれぞれの学びから得た目線を活かし、地区ごとにテーマを設定して発表しました。

また、7月下旬には「アサザ基金の活動を学ぶ合宿」を行い、活動の「理念」を学ぶことの重要性を学生が学ぶ機会となりました。アサザ基金代表の飯島博氏からアサザ基金の理念と活動方針を聞き、霞ヶ浦を中心とした循環型社会づくりの現場を体験しました。

8月には関東・関西・愛知・宮城地区全てのインターン生・チューターが一堂に会する全国合宿を実施しました。ここではまずラーニング生同士が議論してインターンシップでの課題を明確にしました。外部講師として前年度に引き続き藤村コノエ氏(NPO法人環境文明

21 共同代表) を招いたほか、環境問題に関するディスカッション、今後の目標設定などを行いました。その後のインターンシップ活動をより充実としたものとするきっかけを得たとともに、各々の将来について夢を持って語りあう機会となりました。

2月には、ラーニング生それぞれが自分の経験・学びを整理し振り返るための「修了レポート」を作成しました。

関東地区では、NPO法人アサザ基金、地元の中学校との協働により田んぼの取り組みを行い、2度目の収穫に至りました。中学生のアイデアも取り入れながら工夫をし、地域の循環型社会づくりを体験する機会となりました。

| CSO名                           | 人数 |
|--------------------------------|----|
| (関東地区)                         | -  |
| 1 アサザ基金                        | 2  |
| 2 ECOPLUS                      | 2  |
| 3 オイスカ                         | 2  |
| 4 オーシャンファミリー                   | 1  |
| 5 環境エネルギー政策研究所                 | 2  |
| 6 環境ビジネスウィメン                   | 1  |
| 7 環境文明21                       | 2  |
| 8 共存の森ネットワーク                   | 1  |
| 9 国際自然大学校                      | 1  |
| 10 コンサベーション・インターナショナル          | 2  |
| 11 持続可能な開発のための教育の10年推進会議       | 2  |
| 12 ジャパン・フォー・サステナビリティ           | 2  |
| 13 JUON NETWORK                | 1  |
| 14 樹木・環境ネットワーク協会               | 1  |
| 15 新宿環境活動ネット                   | 2  |
| 16 WWFジャパン                     | 2  |
| 17 日本エコツーリズムセンター               | 1  |
| 18 日本環境教育フォーラム                 | 2  |
| 19 日本自然保護協会                    | 2  |
| 20 バードライフ・インターナショナル・アジア・ディビジョン | 1  |
| 21 パブリックリソースセンター               | 1  |
| 関東地区計                          | 33 |

| CSO名                     | 人数 |
|--------------------------|----|
| (関西地区)                   | -  |
| 1 愛のまちエコ倶楽部              | 2  |
| 2 安曇川流域・森と家づくりの会         | 1  |
| 3 大阪自然環境保全協会             | 2  |
| 4 大阪みどりのトラスト協会           | 1  |
| 5 環境市民                   | 2  |
| 6 気候ネットワーク               | 0  |
| 7 京都モデルフォレスト協会           | 1  |
| 8 こども環境活動支援協会            | 2  |
| 9 地球環境と大気汚染を考える全国市民会議事務局 | 1  |
| 10 日本ウミガメ協議会             | 1  |
| 11 びわこ豊穰の郷               | 2  |
| 関西地区計                    | 15 |
| (愛知地区)                   | -  |
| 1 オイスカ中部研修センター           | 3  |
| 2 地域の未来・志援センター           | 2  |
| 4 パートナーシップサポートセンター       | 2  |
| 5 藤前干潟を守る会               | 3  |
| 愛知地区計                    | 10 |
| (宮城地区)                   | -  |
| 1 仙台いぐね研究会               | 2  |
| 2 環境会議所東北                | 3  |
| 3 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク      | 3  |
| 宮城地区計                    | 8  |
| 総合計                      | 66 |

昨年度終了時点のCSOラーニング制度の卒業生は合計726名となりました。今後も特徴ある環境教育・人材育成のしくみを目指し、一層の制度の充実、推進を図ってまいります。

## ②CSOによる人材育成事業等への助成（予算100万円）

CSOが自ら行う人材育成事業に対して、6件（87万円）の助成を行いました。

| 団体名                       | プロジェクト名                          | 実績 |
|---------------------------|----------------------------------|----|
| 1 地域の未来・志援センター(寺子屋プロジェクト) | 『聴く、書く、感じる、みえてくる～ファシリテーション入門講座～』 | 10 |
| 2 全国大学生環境活動コンテスト実行委員会     | 第10回全国大学生環境活動コンテスト(ecocon2012)   | 30 |
| 3 国際自然大学校                 | 夏キャンプ活動報告書の配布・普及事業               | 5  |
| 4 日本環境教育フォーラム             | 清里ミーティング2012                     | 10 |
| 5 新宿環境活動ネット               | エコぼけ発行事業                         | 2  |
| 6 アサザ基金                   | 牛久サイエンスフェスタ～カッパ大交流会～             | 30 |
|                           | 合計                               | 87 |

(2) 環境保全に関する情報の収集及び提供並びに啓発普及

(事業予算計1,650万円、実績計1,324万円)

①「市民のための環境公開講座」の開催(予算1,000万円)

公益社団法人日本環境教育フォーラム・株式会社損害保険ジャパンと当財団が共催にて開講している本講座は、昨年度で20年目を迎えました。

講座内容は通年講座を柱としながら、特別講座は新たな受講者層を拡大するために2つの体験型講座を企画しました。

通年講座のテーマは「パート1 リオ+20、そしてこれからの地球は」、「パート2 原子力災害に向き合うために」、「パート3 自然と歴史のまち東京」とし、各パート3回、合計9回開催しました。

パート3では初めての試みとして、来年度中に合併を予定している日本興亜損害保険の日本橋ビルを会場として講座を実施しました。

特別講座は、水路を巡る東京の歴史と環境を学ぶ「船でめぐる江戸のまち」、大学生・若手社会人向けに「社会を変えるシゴト・ワークショップ」の2つを開催し、通年講座とは異なった層が本講座に接する機会となりました。

<受講者の状況> \*2011年度の特別講座は4回の合計、2012年度は2回の合計

| 2012年度               | パート1 | パート2 | パート3 | 特別講座 |               |
|----------------------|------|------|------|------|---------------|
| 申込者数                 | 163名 | 206名 | 154名 | 61名  |               |
| 延べ参加者数<br>(各パート3回実施) | 301名 | 349名 | 215名 | 54名  | ※年間延べ参加者 919名 |

| 2011年度               | パート1 | パート2 | パート3 | 特別講座 |                 |
|----------------------|------|------|------|------|-----------------|
| 申込者数                 | 159名 | 246名 | 195名 | 103名 |                 |
| 延べ参加者数<br>(各パート3回実施) | 373名 | 469名 | 280名 | 103名 | ※年間延べ参加者 1,225名 |

| 2010年度               | パート1 | パート2 | パート3 | パート4 |                 |
|----------------------|------|------|------|------|-----------------|
| 申込者数                 | 176名 | 216名 | 185名 | 219名 |                 |
| 延べ参加者数<br>(各パート3回実施) | 406名 | 412名 | 268名 | 308名 | ※年間延べ参加者 1,394名 |

<通年講座の内容>

パート1. リオ+20、そしてこれからの地球は

| 回目           | テーマ                              | 講師    |                        |
|--------------|----------------------------------|-------|------------------------|
| 1 2012年7月17日 | リオ+20の成果と今後の展望<br>持続可能な開発は実現可能か？ | 塚本 直也 | 環境省地球環境局 国際連携課長        |
| 2 2012年7月24日 | 1992年-2012年 2つのリオ会議と世界の変化        | 岡島 成行 | 日本環境教育フォーラム 理事長        |
| 3 2012年7月31日 | 環境の世界史の可能性                       | 羽田 正  | 東京大学 副学長<br>東洋文化研究所 教授 |

パート2. 原子力災害に向き合うために～過去と海外に学ぶ～

| 回目           | テーマ  | 講師       |                      |
|--------------|--|----------|----------------------|
| 1 2012年9月11日 | 放射能環境汚染下での暮らし                                  | 河田 昌東    | NPO法人 チェルノブイリ救援 中部理事 |
| 2 2012年9月18日 | 水俣病事件の教訓は生かされたのか？<br>福島原発事故の諸問題を環境倫理の視点から解きあかす | 鬼頭 秀一    | 東京大学 新領域創成科学研究科 教授   |
| 3 2012年9月25日 | ドイツのエネルギー政策<br>脱原発、再生可能エネルギーと経済成長              | サーラ・スヴェン | 上智大学 国際教養学部 准教授      |

パート3. 自然と歴史のまち東京

| 回目            | テーマ                              | 講師     |                         |
|---------------|----------------------------------|--------|-------------------------|
| 1 2012年10月16日 | 緑の東京史<br>江戸東京のみどり文化              | 進士 五十八 | 東京農業大学 名誉教授・前学長<br>農学博士 |
| 2 2012年10月23日 | 銀座ミツバチ物語<br>ミツバチを通して、都市から環境との共生を | 田中 淳夫  | NPO法人 銀座ミツバチプロジェクト 副理事長 |
| 3 2012年10月30日 | 海鳥から見た東京の自然、<br>とくにアホウドリの復活      | 長谷川 博  | 東邦大学 理学部 教授             |

<特別講座の内容>

| 東京都        | テーマ                  | 講師                  |
|------------|----------------------|---------------------|
| 2012年7月14日 | <野外講座><br>船でめぐる江戸のまち | NPO法人あそんで学ぶ環境と科学倶楽部 |

| 東京都         | テーマ  | 講師                                    |   |
|-------------|--|---------------------------------------|---|
| 2012年10月27日 | <ワークショップ><br>若手社会人・学生向け<br>「社会を変えるシゴト・ワークショップ」 | 講師<br>青木 将幸<br>木村 拓人<br>田中 理恵<br>守谷 修 | 青木将幸ファシリテーター事務所 代表<br>株式会社グランマ 代表<br>NPO法人てごねっと石見 理事<br>国土交通省 都市局 |

②各種シンポジウム・研究会への協賛（予算100万円）

環境問題の普及・啓発活動に対し、4件（80万円）を助成しました。

（単位：万円）

|   | 団体名             | プロジェクト名                              | 実績 |
|---|-----------------|--------------------------------------|----|
| 1 | 地球温暖化防止全国ネット    | 低炭素杯2013                             | 30 |
| 2 | 環境文明21          | 2012年度経営者「環境力」大賞                     | 10 |
| 3 | 棚田学会            | 平成24年棚田学会シンポジウム<br>「棚田と民族～人々のくらしと棚田」 | 10 |
| 4 | 菜の花プロジェクトネットワーク | 第9回菜の花学会・楽会 in 東近江開催事業               | 30 |
|   |                 | 合計                                   | 80 |

(3) 環境保全のための活動に従事する団体及び個人に対する助成

(事業予算計480万円、実績計338万円)

①「環境保全プロジェクト助成」(予算350万円)

引き続き公募助成を実施し、45件の応募をいただきました。11月29日の認定委員会において10件を選定し助成しました。

(単位:万円)

| NO.   | 団体名                           | 都道府県 | プロジェクト名                          | 実績  |
|-------|-------------------------------|------|----------------------------------|-----|
| 1     | 特定非営利活動法人 nature center risen | 東京都  | 練馬区石神井台公園マップを作って、地域の緑を広げよう!      | 20  |
| 2     | 特定非営利活動法人 ビーグッドカフェ            | 東京都  | 都市と農村との連携で耕作放棄地の再生を目指すオレンジプロジェクト | 20  |
| 3     | 北川かっぱの会                       | 東京都  | 北川流域の特定外来生物等の防除と地域住民への啓発活動       | 20  |
| 4     | 特定非営利活動法人 海の森・山の森             | 神奈川県 | 水の輪廻の探究<br>～海の森・山の森(写真)展～        | 20  |
| 5     | 山崎川グリーンマップ                    | 愛知県  | 山崎川の川ガキ育成とニホンイシガメの保護             | 20  |
| 6     | 特定非営利活動法人 表浜ネットワーク            | 愛知県  | 表浜小・中学校連携プロジェクト                  | 20  |
| 7     | 大津の町家を考える会                    | 滋賀県  | 町屋が人とまちと環境にやさしい建物であることを広める活動     | 20  |
| 8     | 立命館大学経営学部プロジェクト団体 丹後村おこし開発チーム | 滋賀県  | 茅葺き家屋修復事業による循環型社会づくり             | 20  |
| 9     | 川跡ビオトープ友の会                    | 島根県  | きつずbioくらぶ・<br>よみがえれ水辺の生きものたちⅡ    | 20  |
| 10    | ひよじ夢プラン振興会                    | 山口県  | ひよじの自然保護継承                       | 20  |
| 助成金合計 |                               |      |                                  | 200 |

(4) 環境保全に係わる学術研究に対する助成 (事業予算計820万円、実績計654万円)

①学術研究助成 (予算180万円)

14件の応募があり、7月13日の選考委員会において5件を選定し助成しました。過去からの累計では57名に助成し、うち24名が博士号取得に至りました。

(単位:万円)

|       | 申請者                       | 所属大学院名              | 研究テーマ  | 推薦者                            | 実績  |
|-------|---------------------------|---------------------|--|--------------------------------|-----|
| 1     | 廣重 剛史                     | 早稲田大学大学院<br>社会科学研究科 | 被災地における「新しい防潮林づくり」に関する<br>応用現象学的考察   | 早稲田大学<br>社会科学総合学術院<br>教授 田村 正勝 | 30  |
| 2     | 二見 絵里子                    | 早稲田大学大学院<br>法学研究科   | 日本における、環境損害に対する責任制度の<br>あり方  | 早稲田大学法学学術院<br>教授 河野 真理子        | 25  |
| 3     | Chalermthanakom<br>Adisak | 京都大学大学院<br>経済学研究科   | Comparative Analysis of Porter Hypothesis<br>:A Case Study of Industries in Japan. | 京都大学大学院<br>経済学研究科<br>教授 諸富 徹   | 30  |
| 4     | 石倉 研                      | 一橋大学大学院<br>経済学研究科   | 水源環境保全に関わる税財政システムの研究   | 一橋大学大学院<br>経済学研究科<br>教授 寺西 俊一  | 30  |
| 5     | 堀 さやか                     | 京都大学大学院<br>地球環境学舎   | ウォーターボードに見る、統合的土地・水資源<br>管理と評価モデルの構築   | 京都大学大学院<br>地球環境学舎<br>教授 小林 慎太郎 | 30  |
| 助成金合計 |                           |                     |  |                                | 145 |

## ②企業と環境問題研究会 (予算450万円)

テーマを「気候変動への『適応』～主として自然災害リスクへの対応～」とし、座長の西岡秀三氏(地球環境戦略機関顧問)を中心に、研究者および損保ジャパングループ会社社員を委員に迎え、外部からの講師も招き研究を継続しました。また、昨年度が予定期間の中間点に当たることから、中間報告としてシンポジウムを開催しました。

<開催実績とテーマ>

第7回 5月10日: 地方自治体における適応策の取り組み動向と課題

—法政大学大学院教授 田中充氏

気候変動が農業生産に与える影響に関する経済分析

—上智大学経済学部教授 日引聡氏

第8回 7月13日: 適応費用評価に関する最近の動向について

—国立環境研究所 高橋潔氏

環境政策問題の確立微分方程式

—東京大学特任教授 前田章氏

第9回 9月12日: 日産自動車のリスクマネジメント

—日産自動車株式会社 菅原正氏

気候変動の適応への企業における取組

—NKS J リスクマネジメント株式会社 斎藤照夫氏

第10回 1月28日: 損失・損害に関する作業計画

—名古屋大学大学院教授 高村ゆかり氏

適応関連資金メカニズム

—国立環境研究所 久保田泉氏

第11回 3月25日: リスク回避行動について

—関西学院大学教授 山鹿久木氏

＜シンポジウム「気候変動にレジリエント（強靱）な社会のために」＞

昨年度より、3年間の取り組みとしてスタートした『適応』に関する研究について、その中間発表という位置づけでシンポジウムを開催し140名が参加しました。基調講演では『適応』に関する基本的な考え方と最新の情報を整理し、セクター別報告ではこれまでに研究会の場で発表された方々からの最新の報告を行われました。パネルディスカッションでは課題や各セクターからの対応策について議論が行われ、適応へのますますの取り組みの必要性を認識する機会となりました。

| 日程             | テーマ   | 講師  |  |
|----------------|---|---|--|
| 2012年<br>11月6日 | 環境問題研究会中間報告シンポジウム<br>『気候変動にレジリエント(強靱)な社会のために』 | 基調講演<br>三村 信男                             | 茨城大学 教授  |
|                | パートⅠ<br>「世界的に始まった気候変化への適応策」                   | セクター別報告者<br>辻原 浩<br>市橋 新<br>菅原 正<br>斉藤 照夫 | 環境省 地球環境局 総務課 研究調査室長<br>東京都 環境局 環境政策部 環境政策主査<br>日産自動車株式会社 グローバル内部監査室 主<br>NKSJリスクマネジメント株式会社 顧問 |
|                | パートⅡ<br>適応への取り組みセクター別報告                       | 司会<br>西岡 秀三                               | 地球環境戦略研究機関 顧問  |
|                | パートⅢ<br>パネルディスカッション                           |   |  |

## (5) その他の事業

### ① 「損保ジャパン・首都圏ふれあいの森」事業への支援

株式会社損害保険ジャパンは、埼玉県嵐山町の森林（8.29ha）について、CSR推進の一環として森林づくりに関する協定を平成21年3月に締結しています。

昨年度も以下の通り、プログラムづくりや当日の進行に関して、森林協定のパートナーであるNPO法人樹木・環境ネットワーク協会と全面的に協働のうえ実施しました。

＜第1回＞ 平成24年5月19日（土） 間伐・除伐 約200名参加

\* ＜第2回＞平成24年11月17日（土） 予定の間伐は雨天のため中止

## (6) その他の特記事項

### ① 内閣府への届出

平成24年6月29日 平成23年度(公益財団以降後第1期)の事業報告等の提出をしました。

平成24年7月24日 理事および評議員の変更の届出をしました。

平成24年8月 6日 評議員の変更の届出をしました。

＜平成24年6月28日に就任した7名の理事（1名の代表理事を含む）の登記を平成24年7月11日に実施し、7月24日に内閣府に届出＞

## 2. 庶務の概要（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

### （1）役員に関する事項

役員等の氏名は次の通りです。（常勤者に「常勤」表示） \*平成25年3月31日現在（50音順）

| 役 職  | 氏 名    | 備 考                         |
|------|--------|-----------------------------|
| 理事長  | 佐藤 正敏  | 株式会社損害保険ジャパン 取締役会長          |
| 専務理事 | 関 正雄   | （常勤）株式会社損害保険ジャパン 理事 CSR統括部長 |
| 理事   | 伊東 俊太郎 | 東京大学名誉教授                    |
| 理事   | 岡島 成行  | 公益社団法人日本環境教育フォーラム 理事長       |
| 理事   | 小島 麗逸  | 大東文化大学 名誉教授                 |
| 理事   | 炭谷 茂   | 社会福祉法人恩賜財団済生会 理事長           |
| 理事   | 森寫 昭夫  | 特定非営利活動法人日本気候政策センター 理事長     |
| 監事   | 斎藤 昭一  | 公認会計士 日本化薬㈱社外監査役            |
| 監事   | 新里 智弘  | 公認会計士                       |
| 評議員  | 大河原 良雄 | 財団法人世界平和研究所 常勤顧問            |
| 評議員  | 大塚 義治  | 日本赤十字社 副社長                  |
| 評議員  | 加藤 三郎  | 環境文明研究所 所長                  |
| 評議員  | 小林 料   | 前 東京電力株式会社 顧問               |
| 評議員  | 杉崎 重光  | ゴールドマン・サックス証券株式会社 副会長       |
| 評議員  | 西澤 敬二  | 株式会社損害保険ジャパン 取締役常務執行役員      |
| 評議員  | 鳥居 泰彦  | 慶応義塾学事顧問                    |
| 評議員  | 中野 良子  | 公益財団法人オイスカ 会長               |
| 評議員  | 三橋 規宏  | 千葉商科大学名誉教授                  |
| 評議員  | 安田 喜憲  | 国際日本文化研究センター 教授             |
| 評議員  | 吉川 弘之  | 独立行政法人科学技術振興機構研究開発戦略センター長   |
| 評議員  | 涌井 洋治  | 日本たばこ産業株式会社 取締役会長           |
| 認定委員 | 阿部 治   | 立教大学 教授                     |
| 認定委員 | 市川 博也  | 国際教養大学 教授                   |
| 認定委員 | 原 剛    | 早稲田大学環境塾 塾長、元早稲田大学大学院 教授    |
| 認定委員 | 関 正雄   | 株式会社損害保険ジャパン 理事 CSR統括部長     |
| 選考委員 | 石川 秀洋  | NKS J リスクマネジメント株式会社 社長      |
| 選考委員 | 植田 和弘  | 京都大学大学院 教授                  |
| 選考委員 | 大塚 直   | 早稲田大学 教授                    |
| 選考委員 | 関 正雄   | 株式会社損害保険ジャパン 理事 CSR統括部長     |



## (2) 職員等に関する事項

平成 25 年 3 月 31 日現在の従業員は次の通りです。

| 区分   | 職種   | 就業年月日            | 備考               |
|------|------|------------------|------------------|
| 事務局長 | 社員   | 平成 23 年 10 月 1 日 | (株)損害保険ジャパンより出向  |
| 職員   | 社員   | 平成 19 年 7 月 1 日  | (株)損害保険ジャパンより出向  |
| スタッフ | 派遣社員 | 平成 18 年 9 月 4 日  | (株)キャリアビューローより派遣 |

## (3) 役員会等に関する事項

### ①理事会の開催

| 開催日                            | 会議事項  | 結果   |
|--------------------------------|---|--|
| 平成 24 年 6 月 7 日<br>第 1 回通常理事会  | 第 1 号議案：定時評議員会開催の件<br>第 2 号議案：平成 23 年度事業報告及び<br>決算承認の件<br>第 3 号議案：評議員会へ提出する評議<br>員候補者名簿の件<br>第 4 号議案：評議員会へ提出する理事<br>候補者名簿の件<br>第 5 号議案：認定委員選任の件<br>報告事項：資金運用の経過状況の件、<br>役員賠償責任団体契約加<br>入の件、職務執行状況の<br>件 | 全員一致で承認可決<br>全員一致で承認可決<br>全員一致で承認可決<br>全員一致で承認可決<br>全員一致で承認可決<br>全員一致で承認可決<br>全員了承 |
| 平成 24 年 6 月 28 日<br>第 1 回臨時理事会 | 第 1 号議案：理事長選定の件<br>第 2 号議案：専務理事選定の件<br>第 3 号議案：役員報酬の件   | 全員一致で承認可決<br>全員一致で承認可決<br>全員一致で承認可決  |
| 平成 25 年 3 月 14 日<br>第 2 回通常理事会 | 第 1 号議案：平成 25 年度事業計画およ<br>び収支予算の件<br>第 2 号議案：認定委員・選考委員の件<br>報告事項：平成 24 年度年度事業経過<br>報告、職務執行状況の件  | 全員一致で承認可決<br>全員一致で承認可決<br>全員了承   |

### ②評議員会の開催

| 開催日                        | 会議事項  | 結果  |
|----------------------------|---|---|
| 平成 24 年 6 月 28 日<br>定時評議員会 | 第 1 号議案：平成 23 年度決算承認の件<br>第 2 号議案：評議員選任の件<br>第 3 号議案：任期満了に伴う理事選任<br>の件<br>報告事項：役員賠償責任団体契約加<br>入の件 | 全員一致で承認可決<br>全員一致で承認可決<br>全員一致で承認可決<br>全員了承 |

(4) 許可、認可および承認に関する事項

該当はありません。

(5) 寄付金等に関する事項

| 寄付の目的      | 寄付者                          | 金額           |
|------------|------------------------------|--------------|
| 財団の運用財産として | 株式会社損害保険ジャパン                 | 51,000,000 円 |
| 財団の運用財産として | ちきゅうくらぶ社会貢献<br>ファンド (損保ジャパン) | 5,000,000 円  |
| 財団の運用財産として | 法人                           | 1,870,000 円  |
| 財団の運用財産として | 個人                           | 1,647,000 円  |

(6) 行政庁指示に関する事項

該当はありません。